

1 学校教育目標
校訓「自律・敬愛・創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって行動する力を備えた人材の育成をめざす。そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。

2 本年度の重点目標
<p>(1) 健全な心身の育成</p> <p>ア 基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成を図る。</p> <p>イ 自主・自律の精神を涵養する。</p> <p>ウ 他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。</p> <p>エ 学校行事等の取組をとおして、帰属意識、協調性、自己肯定感等を高める。</p> <p>(2) 学力の向上と進路指導の充実</p> <p>ア 授業の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>イ 基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。</p> <p>ウ キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。</p> <p>エ 個々の能力・適性・進路目標に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>(3) 保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実</p> <p>ア 生徒に水高定時制で学ぶことへの自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。</p> <p>イ 情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。</p> <p>ウ 商品開発の取組等、地域社会と連携した取組をとおして、社会の一員としての自覚を高め、視野を広げる。</p> <p>エ 保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。</p> <p>オ 総合型コミュニティ・スクールを活用し、地域と連携した学校運営を図る。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進 安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	教育目標の達成のために、定時制の特色を生かした魅力ある教育を実践する。 学校ホームページや学校通信等を活用して学校の取組を発信する。	教育活動全般における目標達成度について、評価・反省を行い指導の改善に繋げる。各部の担当者に役割と責任を与え、積極的に発信するように促す。	B	学校評価アンケート結果では、昨年と比較し、生徒・保護者ともに肯定的な評価の割合が上昇した。学校ホームページや学校通信等で学校の様子や販売自習等の取組みについて発信したが、今後継続させるためにも、さらなる質の向上と工夫が必要である。
		安全点検および防災教育の徹底	事故防止のための安全管理を徹底する。防災に自発的・能動的に取り組む態度を育てる。	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施する。各学期に防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める。	B	定期的に安全点検を実施して、必要に応じて修理等を行った。防災訓練は水俣消防署にて実施し、非常に充実した研修を行うことができた。
	生徒理解の推進	保健衛生指導の充実	感染症予防に対する意識の向上と実践力を培う。	チェックシートやICTを活用して健康観察を行い、感染拡大防止に取り組む。	A	サーモカメラやアクリル板を設置し、感染対策を強化した。今年度よりクロムブックが導入され、生徒・職員の健康観察はICTを活用して実施する体制を構築した。
		生徒理解と課題・指導の共有化と一人一人の居場所がある学校づくり	個別・最適な指導により学ぶ意欲を喚起させ、自己発見、自己実現を支援する。	個別の面談等を通して生徒理解を深めるとともに、全職員で支援する体制を構築する。生徒理解研修会を年に5回程度実施して情報共有を図る。関係機関と連携	B	担任を中心に面談を実施して、生徒の状況を把握した。日ごろから連絡会や生徒理解研修等とおして情報を共有し、組織として対応する体制を整えた。地域の中学校や外部機関、教育委員会と連

				しながら合理的な配慮や個に応じた指導を行う。		携し、生活環境等で配慮が必要な生徒に対して支援を行った。
業務改革 働き方改革	業務の効率化	業務量の軽減し、生徒と向き合う時間を確保する。ICTを活用した業務の効率化と情報の共有を図り、ペーパーレス化を促進する。	各分掌において業務の円滑な遂行を検討する。煩雑な業務や従来のシステムを見直すために、改善案の試行を実践しながらより効果的なシステムを構築する。	B	昨年までは管理職を含め毎日連絡会を行っていたが、週に2回に軽減した。ICTを活用しペーパーレス化を進めた。生徒への調査やアンケート等もクロムブックを活用して効率化を図った。	
	職員の意識改革	「公立学校の教師の勤務時間上限に関するガイドライン」を遵守し、超過従事時間の削減を促進する。	特定の職員に業務が集中しないような分業体制を確立する。年間を通して定時退勤を促進する。	B	土日出勤時の出退勤記録を徹底した。超過従事時間の平均は昨年より少し増えたが、月45時間を超える職員はほとんどいなかった。	
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用し、一人一台に対応できる授業づくりを進め、主体的な生徒の学習への工夫を行う。	教務部が企画・立案し、全教科で取り組む。また他校のリモートによる公開授業に積極的に参加する等、新たな公開授業のスタイルに即した教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。	B	授業の研究等、各教科で設定して取り組み、授業改善を行った。一人一台端末の積極的な活用によって、各教科の指導力向上が図られ、生徒への理解が促された。
	基礎学力の向上	基礎国語など、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	教務部が企画・立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	B	学校設定科目の「基礎国語」や数学I、コミュニケーション英語基礎において、基礎的な内容を重点的に行った。3学期には全職員で基礎的な学力の向上の指導を行った。
キャリア教育 (進路指導)	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定と在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路保障と在校生の就労率を50%まで高める。商業関係検定受験を勧める。	卒業予定者の保護者と進路面談を実施する。進路指導部と各担任との連携を深める。商業関係の検定前課外学習を実施する。	B	保護者、本人の意向を尊重した指導を施し卒業予定者を進路決定に導いた。就労率は約60%となった。検定にも積極的に取り組み、延べ20名が合格できた。
	進路意識の高揚	キャリアパスポートの活用や進路関係行事の実施	キャリアパスポートの活用方法を探る。各担任より学期1回程度の聞き取りをする。進路セミナーや進路関係行事等を学期1回程度実施する。	進路指導部が立案し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、外部関係機関と連携を密にして全職員で取り組む。	B	進路関係行事は新型コロナウイルス感染症の拡大でインターンシップと進路講話は中止となったが、キャリアパスポートの作成により自己を見つめ、思考の履歴を残せるようになっている。キャリアサポートの活用は来年度以降の調査書等に活かされる。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	生徒が通学に使用する交通用具の運転に関して、交通ルールを守り事故がないことを目指す。	登校指導や交通安全教室で事故に合わない実践力を身につける指導を行う。	B	交通安全教室を自動車学校で実施し、自転車、バイク、自動車の実践的な学習を行った。自動車による交通事故が1件あった。

		挨拶、マナー、時間厳守等の基本的な生活習慣の確立	多様な課題を抱える生徒が生活習慣を改善して、きちんと学校生活を送れるようにする。情報モラル教育を強化する。	日々の生徒の情報交換や生徒理解研修等を通して、職員間の共通理解を図り迅速かつ適切に取り組む。必要に応じて全体への指導を行う。	B	連絡会等で生徒の状況を毎日把握し、職員間での共通理解のもと適切な指導を行った。生徒は全体的に落ち着いていたが、情報モラルの問題が1件あった。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙防止と薬物使用の根絶を目指した指導の実施する。	喫煙の状況把握と健康に関わる講話を実施し、生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	A	学校薬剤師の講話を行い、生徒は喫煙や薬物の実態を知るとともに、身体を守る方法を学び、意識を高めた。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実 「命を大切にすること」を育む指導の推進	職員の人権意識の向上と深化を図り、生徒の人権意識の向上につなげる。	校内の年間職員研修計画の作成と実施する。生徒の特別活動(LHR)等年間計画の作成と実施する。	今年度も校外の研修が実施されない可能性が大きいので、人権に関する記事等を紹介しながら、職員の人権意識の啓発を図る。人権教育主任と生徒指導部が立案し、学校全体で取り組む。	B	校外の研修については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施が限られていた。そのため連絡会等で人権に関する新聞記事などの資料を提供し、情報を共有することで研修の一環とした。また、別途定時制だけの職員研修を実施した。
		「命」や「生きること」の考察とおとした自己肯定感と他者を思いやる心の育成	「命」の大切さの認識や体験とおとした自己肯定感の向上と、他者と良好な人間関係を構築させる。	学校において生徒が安心して生活できるように配慮する。また、授業や特別活動において、生徒が活躍し、自分の存在感を感じることができるよう場面を提供する。全職員で常に意識して取り組む。	B	特に「総合的な探究の時間」や「特別活動」の時間に生徒が様々な体験をすることで、自己肯定感を高めてきている。相手の気持ちを理解したり、周囲へ心配りをしたり、他者と協働する社会性や自立心、道徳性を育成しつつある。
	教科指導における取り組みの推進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題やニーズに応じた学習指導の工夫をする。	教務部と連携して、「ユニバーサル・デザイン」の視点を取り入れた授業を目指し、ICTを活用しながら全教科・全職員で取り組む。	B	多様な生徒がいる中、学習プリントの作成の工夫教えあい等により、個に応じた、授業に組みやすいような手立てを講じた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及びいじめ防止対策委員会を中心とした取り組み	いじめを許さない学校づくりを行う。(相手の気持ちを理解し、周囲への心配りができる生徒の育成)	いじめ防止基本方針に基づいた計画的な指導とともに、特に6月の「いじめ根絶月間」においては人権教育LHRを実施し、「心のきずなを深める標語」を生徒に作成させることでいじめについて考えさせ、いじめ防止の気持ちの涵養を図る。	A	4月のオリエンテーションで生徒会の代表が、「いじめを許さない宣言文」を読み上げ、6月のいじめ根絶月間では、全生徒が「心のきずなを深める標語」を作成した。毎学期の「学校生活のアンケート」等によりいじめについて考えることになり、全生徒・全職員でいじめを許さない意識を育成することができた。
			いじめの早期発見と早期解決を実践する。(初動対応を重視)	各学期においていじめアンケートを実施すると共に面談の充実により教育相談体制の強化を図る。情報が共有化を図り、いじめが発生した際はマニュアルに基づいて全職員で迅速に対応する。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。	B	各学期に行ういじめアンケートの結果は教育相談について、生徒や保護者の満足度を高める取り組みが求められている。今後はさらに、いじめ予防と事案が発生した際の迅速な対応について、いじめ情報集約担当者を中心に組織で対応する体制を整える。

特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施と、適切な指導の充実	支援を要する生徒への理解を深め、個々に応じた支援を推進する。生徒・保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして生徒の実態を把握し、職員の共通理解を深める。スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら、支援の検討を行い実施する。	B	日々の連絡会で学年から生徒状況報告を行い、年間5回の生徒理解研修をとおして、生徒の特性の理解をすることができた。スクールカウンセラーの利用についても連携を密にして生徒、保護者の利用につなげた。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進 学習環境の整備と推進	「環境首都みなまた」実現のための学校版環境ISOの取組	全日制と連携を図りながら、学校版環境ISO宣言項目の徹底した活動を行う。	宣言項目を基に生徒指導部を中心に生徒・職員全体で取り組む。コンタクトレンズケースの回収や使い捨てカイロの回収など、地域の活動に参加する。また、外部講師を招き環境学習を実施する。	A	宣言項目の実践に生徒・職員全体で取り組んだ。ペットボトルキャップやコンタクトレンズケースの回収を全日制と協力して実施し、地域の活動に参加した。また、外部講師を招き水俣病について環境学習を実施することができた。
		環境美化意識の醸成と実践力の育成	主体的に学習環境の整備に取り組む生徒を育成する。	生徒・職員ともに毎月エコスクールチェックシートを活用した取り組みを行い、環境整備の意識を涵養する。	A	エコスクールチェックシートを用いて振り返りを行い、環境美化強化週間を学期に1回実施し学習環境の整備・環境美化意識の向上を図った。コロナウイルス感染予防も考慮し、日々の清掃活動を生徒・職員一体となつて行なった。環境整備に主体的に取り組む生徒が増えてきた。
(コミュニティ・スクールなど) 地域連携	家庭・地域への定時制教育の周知	地域住民に対する、定時制教育についての情報発信	学校行事を中心に定時制の教育活動についての広報活動を充実させる。学校ホームページや学級通信等を活用し、保護者や地域等へ魅力を発信する。	学校行事や商業科の販売実習をとおして定時制の教育活動を公開する。学校ホームページを随時更新し、特色有る取り組みを紹介する。	B	文化祭や販売実習等を通じて定時制の教育活動を紹介した。学校行事や講師招へい授業等の様子を学校ホームページを活用したり、市広報「みなまた」に掲載していただきながら情報を発信した。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	保護者との連携・協力体制を構築する。	毎月「定時制便り」を発行して学校での生徒の様子を伝える。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためICTや書面等で保護者の協力を仰ぐ。	B	「定時制だより」を毎月発行し家庭へ送付し学校の様子を知らせた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため毎日の健康観察をICTで行い、保護者の協力を得ながら、家族の体調も報告していただいた。
		総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協力体制の構築	教育活動の改善のための地域連携体制を確立させる。	学期に1回の会合で教育活動の現状を報告し、地域が期待する教育の在り方についての意見を聴取する。	B	会議での助言や文化祭を観覧していただいた際の生徒への激励等、学校運営に有効な連携・協力体制の基盤ができた。

4 学校関係者評価

(1) 学校評価結果について

前年度と比較し、学校評価結果が良くなっていることは、生徒と教員の関係が良いからではないか。ICT機器の活用に関して、授業や業務等でどのように活用されているかを具体的に教えていただきたいなどの意見をいただき、委員の皆様のアンケート結果では全項目においてA～Bの評価をいただいた。

(2) 登下校の挨拶・交通マナー等について

登下校時の挨拶がよく、地域の活性化につながっている。登下校で使用する道路沿いの木の伐採などの情報提供をお願いしたい、交通事故件数も少なく全体的には良好であるなどのご意見をいただいた。

(3) 地域への情報発信、及び地域との連携について

学校の魅力を様々な方面に発信しており、日ごろから新聞や市の広報誌等にて生徒の活躍を見るのが楽しみである。今後も地域と連携を図り、地元企業への就職希望者を増やしていただきたいなどのご意見をいただき、委員の皆様へのアンケートでは地域連携項目において全員からA評価をいただいた。

5 総合評価

(1) 学校教育目標について

校訓のもと「気づき、考え、動く」生徒を育成するために、定時制職員が一つのチームとなって取り組んだ。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による様々な教育活動の制限がある中で、生徒の学びを止めないように、毎日の検温、マスク着用、アクリル板等の設置など様々な感染対策を講じながら授業や学校行事等を実施した。ICTを活用しながら授業の質を向上させたり、行事を工夫して生徒が自ら取り組む活動を体験させたりすることができた。また、生活環境等に課題がある生徒や心の悩みを持つ生徒に対して、SCや外部機関等と連携して組織的な対応をしながら支援を行った。

(2) 本年度の重点目標について

「健全な心身の育成」については、日ごろからお互いの人権を尊重した言動や行動を意識して教育活動を行った。人権教育や平和教育等とおして他者や命を重んじる心の育成に取り組んだ。学力向上に関しては、本年度からクロムブックが導入され、これまで以上に生徒の興味関心を引く授業を実践することができるようになった。また、職員の業務においても効果的にICTを活用する体制ができた。校外での販売実習、交通安全教室、防災訓練、人吉市方面への校外研修、文化祭等を実施することができ、生徒が様々な経験をおして主体的に学ぶ環境をつくることができた。保護者や地域へ定時制教育をより理解していただくために、学校ホームページ、市広報誌や新聞への掲載、ラジオ番組等とおして学校行事や販売実習についての情報を発信した。また、地域と連携して販売実習や講師招へい授業等を行いながら、生徒の体験学習の機会を増やすとともに学校の魅力発信に取り組んだ。

(3) 自己評価総括表について

学校運営の保健衛生指導において、昨年度までは健康観察チェックシートを活用しながら感染対策をしていたが、今年度からはICTを活用してより効率的な把握ができるようになった。学校ホームページの内容を随時更新しながら、タイムリーな情報をわかりやすく発信した。学力向上に関しては、一人一台端末を積極的に活用することで、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢を育成した。生徒指導に関しては、毎日の情報交換や定期的に行う生徒理解研修をおして職員全員で情報を共有しながら組織的に対応した。人権教育に関しては、学期ごとに学校独自のアンケートを実施していじめ防止の意識を向上させた。環境教育では、日常の清掃活動を生徒・職員が一体となって取り組み、美化意識を向上させた。また、職員室の整理整頓を心掛け、各部の文書整理を行いながら職場環境を改善した。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 感染対策の徹底、生徒の心身の健康、及び安全な学校づくり

ア ICTを活用して毎日の健康観察を行い、これまで以上に感染拡大防止マニュアルに沿った教育活動を徹底する。また、感染者等への配慮や人権意識を持つ生徒を育成する。

イ 日常から担任だけでなく、組織全体が生徒の出欠状況等を把握できる体制をつくる。外部団体と連携しながら、生徒や家庭を支援する体制を構築する。

ウ 防災意識の向上、及びいじめ等がない安全な教育環境の整備に引き続き取り組む。

(2) 新学習指導要領の実施に向けて

ア 各教科で作成したシラバスに沿って計画的に授業を進め、基礎基本事項を大切にしながら生徒の学力を定着させるとともに、主体的に取り組む姿勢を育成する。

イ 生徒や保護者に観点別評価について年度当初に周知し、考査問題を工夫するとともに、日ごろから生徒の取り組みや活動の記録をとることで客観性のある評価を行う。

ウ 一人一台端末の活用をさらに発展させながら、生徒の学力向上に加えて家庭への情報提供を今まで以上に円滑に行う。

(3) 地域との連携の強化、及び継続

ア 今まで以上に地域の期待に応えられるような教育活動を実施する。

イ 地域と連携した教育活動を今後も継続させるために、地域を担う人材の育成、及び現在の取り組みを継続的に実施できるような組織や体制を構築する。